

# 基調講演

## 地球温暖化、環境技術、そして日本



政策研究大学院大学教授  
内閣府特別顧問

黒川 清氏

インフォード大学の学生がグループを創業したのは九七年ですが、最初の一年は資金がなくて困っていたんです。翌年ようやく投資する人が出てきて、わずか十年で二十兆円産業に成長しました。

昨年、シリコンバレーではクリーンエネルギー関係のベンチャーに四千億円の資金が投資されました。その前は一千億円です。今、みんなが欲しがっていて、大きな市場になり得るのは環境技術やアイデアです。

換する発想が必要だと考えています。日本は食料もエネルギー資源も輸入に頼っていますが、例えば米をもっと生産して、残った茎をバイオ燃料にすればいい。現に今、その研究も盛んに行われています。森林も長期計画で再生、木くずはエネルギーに利用すれば、地方の産業構造が変わり、農水省の役割も今とは全く違ってくるでしょう。不可能だと思っただけで最初から何もできません。できない理由を挙げるのではなく、どうしたらできるかを考えるべきです。グリーンITも同じです。シリコンバレーには高い目標を持つ「棒をはずれた」人たちがいる。

# 産業構造を転換する発想必要 新しいビジネスモデルつくる

環境問題とインターネットの普及によって、世界のパラダイムは大きく変わろうとしています。大量生産大量消費に支えられた産業構造の終焉（しゅうえん）です。本当は一九六〇年代の公害問題や七三年のオイルショックの時に兆しはあったものの、東西冷戦構造の枠組みがあったため、世界的に環境問題が大きな政治的議題にならなかったのです。

では九一年に冷戦の構造が崩れたとき、日本は何を考えたでしょうか。少なくとも米

国や英国の経済人は、三十億人の市場が新しく生まれたと大きな構想力で新しいものを生み出すのは、みんな少しか

考えた。さらに翌九二年にはワールド・ワイド・ウェブで初めて世界中のコンピュータがつながり、九四年には、その仕組みを使って新しいビジネスができると思っただけ

日本は昨年、独ハイリゲンダム・サミットで、二〇五〇年までに温暖化ガスの排出を半分にしようという提案しました。私は、それまでにはエネルギーも食料も輸出できるようにする、というくらいの大きなビジョンで産業構造を転換することを期待しています。